

平成25年度

第1回 認知症地域支援体制推進 全国合同セミナー（1日目）

～認知症の本人と家族を地域で支える体制を築いていくために～

2013年7月25日
認知症介護研究・研修東京センター
（進行：永田 久美子）



ようこそ！ 全国合同セミナーへ

あいさつ 認知症介護研究・研修東京センター
長谷川 和夫 名誉センター長



吉祥寺・井之頭公園

認知症になっても
住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるように。
北海道から沖縄まで、すべての町で。



平成24年度第1回合同セミナー参加者概要

区分	参加自治体数	参加人数
都道府県	8	9人
市区町村 (地域包括支援センター、事業者等含む)	70	103人
認知症 疾患医療センター	2	2人
合計	-	114人

合同セミナーの目的

(平成23年6月6日老発0606第6号老健局長通知)

自治体の認知症施策の担当者・推進役の人が参加し
認知症地域支援体制構築に係る情報共有やその普及をはかる。
(認知症地域資源連携資源連携事業の一環)

すべての自治体が効果的・持続発展的に取組みを推進するために
ポイントは何か

全国各地の取組み事例の
整理・分析に基づいた
資源連携・地域支援体制構築の
あり方を提示

取組みの具体的な事例は

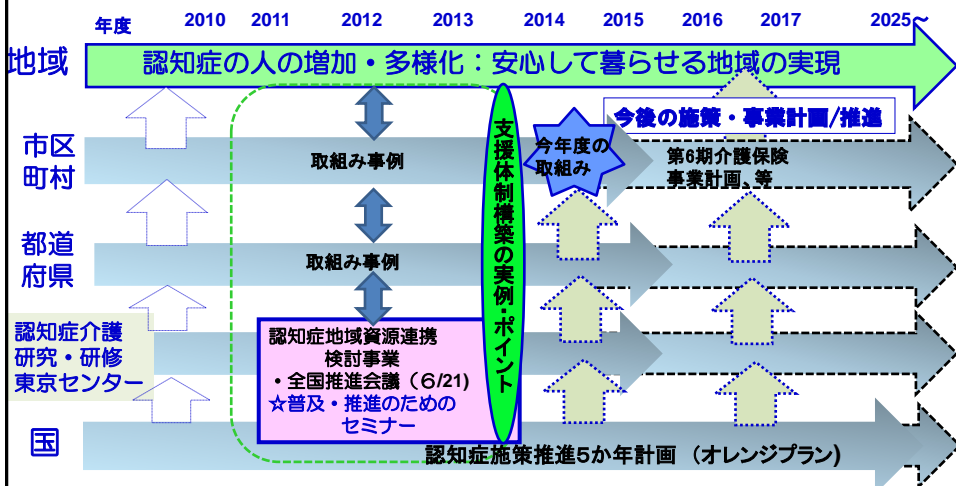
認知症地域支援体制構築に
ついて先進的な取組みを
している自治体の担当者から
事例報告等を行う

自治体の担当者・推進役の人

各自治体/地域で

内容を地元で周知・自地域での取組み・推進に活かす

合同セミナーの位置づけ



地元で暮らす一人ひとりの本人・家族に行き届く支援にむけて
⇒それぞれの立場を活かして重層的な推進を。

平成25年度第1回の全国合同セミナーのねらい

- 基礎自治体としての市区町村の認知症施策の担当者、推進をする立場の人が、自地域で何を大切に、どんな役割をはたしていったらいいのかを確認しよう。
- 今日・明日だけでなく、地元に戻ってから、誰と何をしていくことが必要か、具体的に確認しよう。
- 全国の他地域の関係者と直接出会い、話しあい、これからの取組みを進めていくための視野や発想を広げよう。他地域の人とのつながりをつくろう。
* 今後、一緒に進んでいく仲間づくり



のびのびと

1. これからの「わが町」ならではの認知症支援体制づくりを
一歩ずつ着実に進めるために

～取組み地域から見てきた取組みのポイントと自治体としての役割～

あなたの地域で今・・・

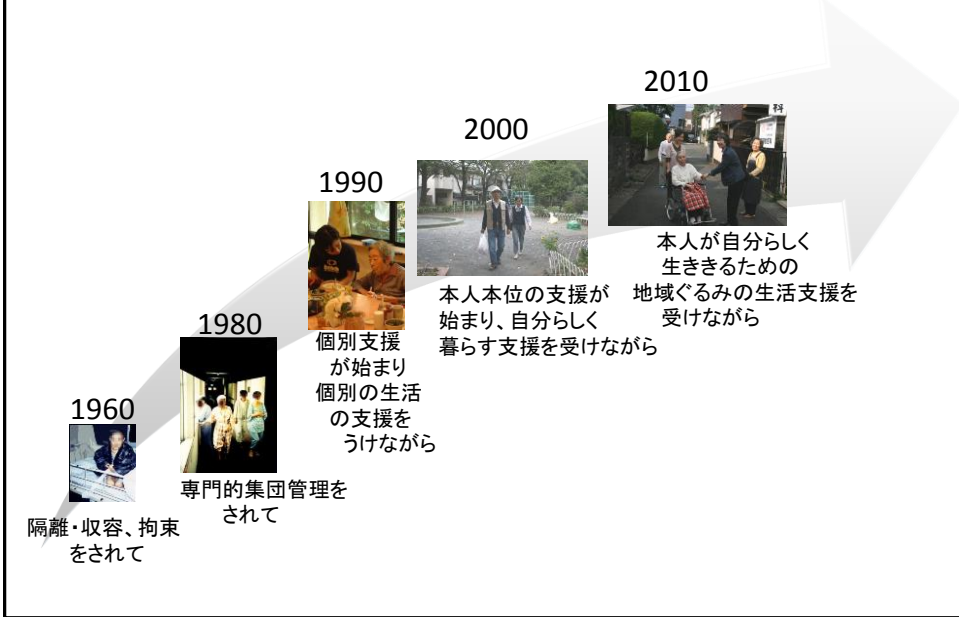
認知症になった人がどんな姿で暮らしていますか？

地域の人たちは(専門職も含めて)
認知症の人と、どんな関わりをしていますか？

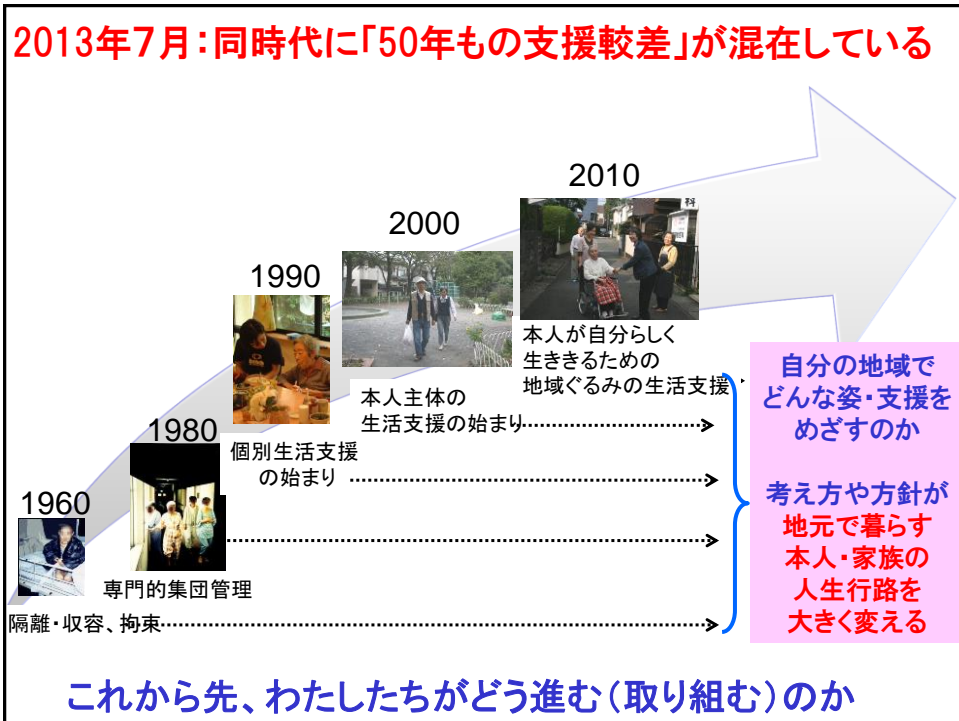
あなた自身は、どんな関わりをしていますか？

あなたが、認知症になった時、
あなたが、どんな姿で暮らしていけるでしょうか？
地域の方は、あなたとどんな関わりをするのでしょうか？

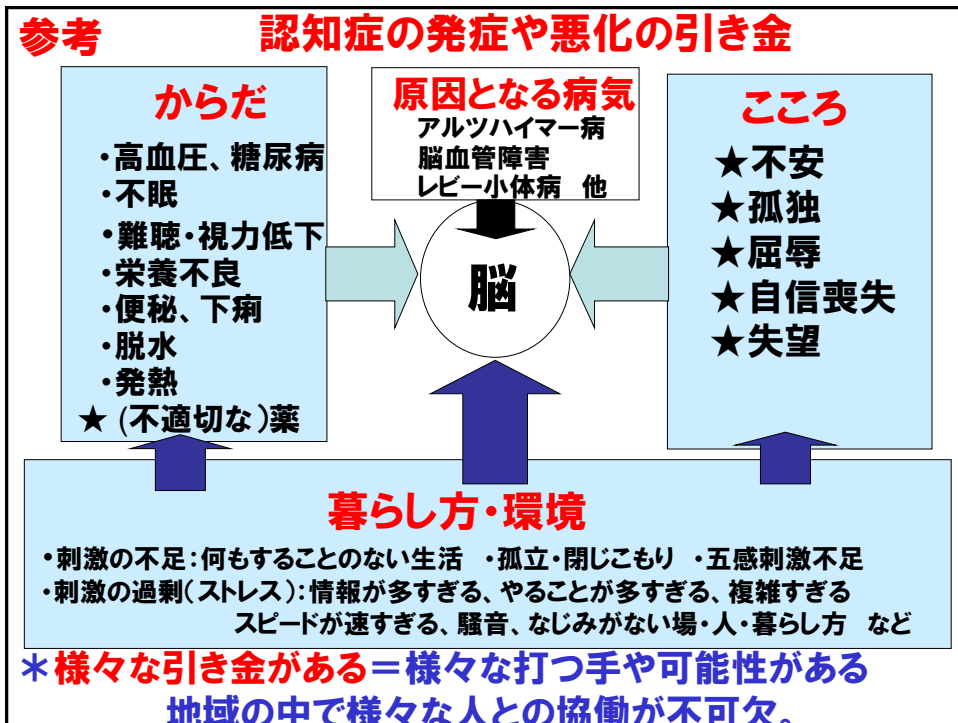
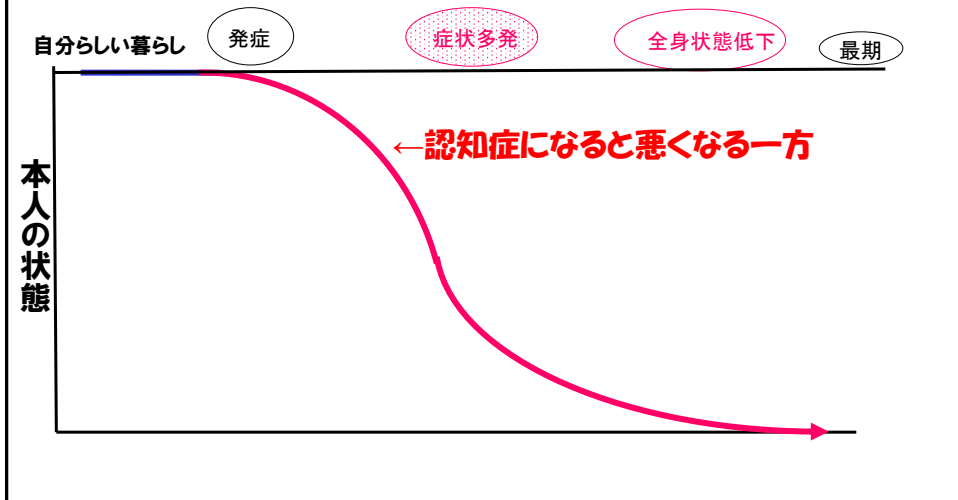
**認知症になって生きる・・・その姿は時代とともに変遷
本人の姿は、地域の人々の意識、支援のあり方で変わる**



2013年7月：同時代に「50年もの支援較差」が混在している



**これまでの誤解： 認知症になると悪くなる一方
その後の人生は、真っ暗・・・**

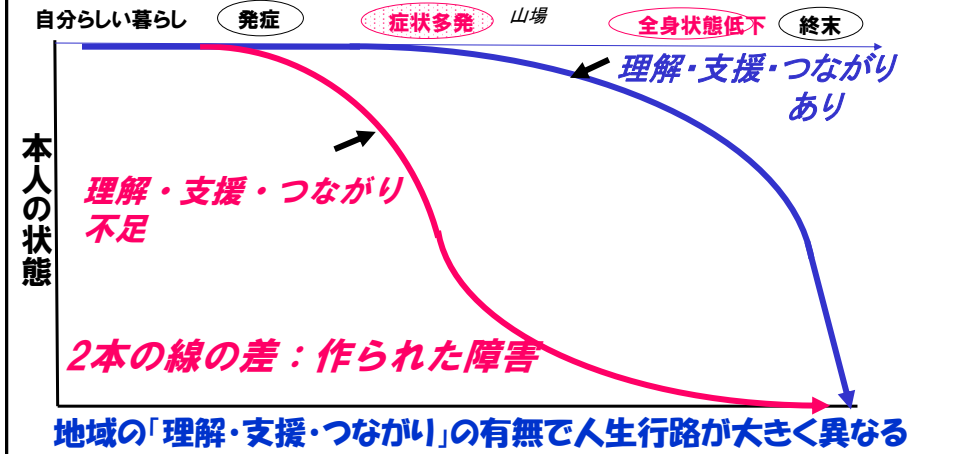


現在わかってきていること

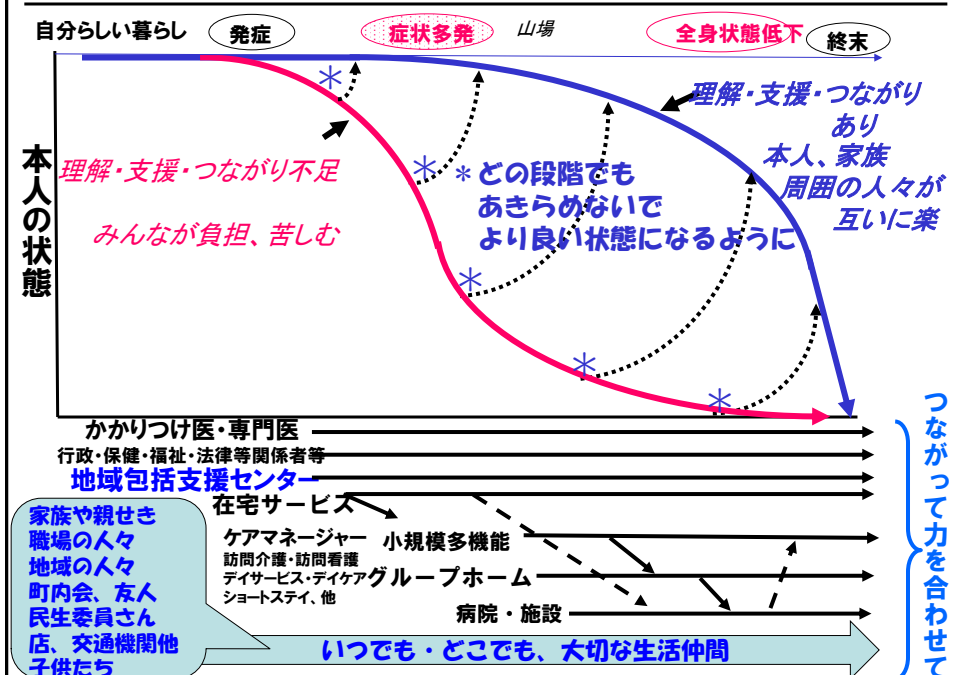
地域の「理解・支援・つながり」があると
認知症の発症や進行を遅らせることが可能。

*その後の人生を有意義に暮らせる。

*本人も、家族、地域(住民、専門職、行政職)の人も
楽になり、前向きに暮らしていける。



長い経過を本人が生きていく:一人でも多くの方がより良い経過をたどれるように



認知症地域支援体制づくり

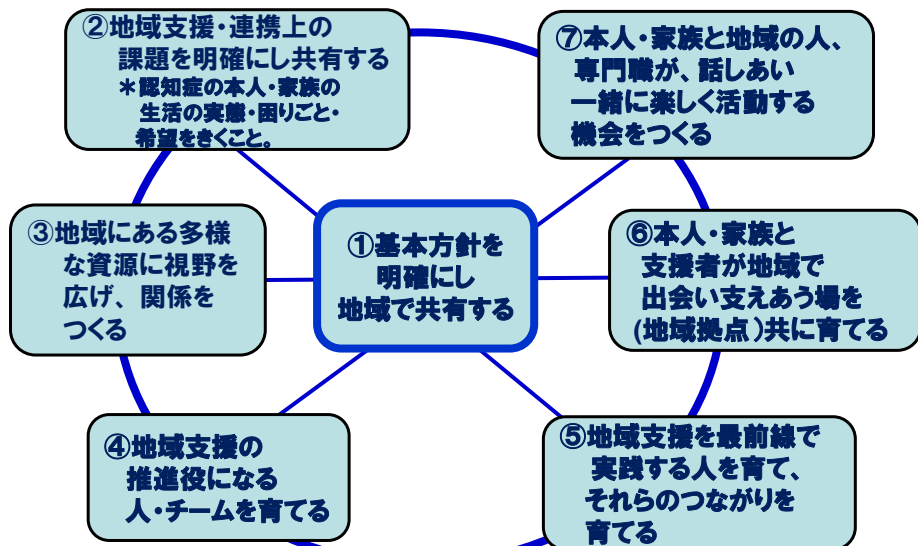
多種多様な人の協働が必要
息の長い継続的取り組みが必要

- * 多種多様な領域・人たちがつながっていくためには・・・
- * 年度内、事業期間内のみでの取り組みでおしまいになったり先細りにならないためには・・・
- * 担当者、組織が変わっても、取り組みが継続していくためには・・・

実際に取組んでいる地域の
経過を通じて見えてきた
ポイントを参考に

これまでの全国各地の取組みにみる

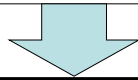
認知症地域支援体制づくりで 重要なポイント（主な点）



参考資料

ポイント①共通方針を明確にし、地域で共有する

- 認知症の人の理解、支援を進めていく上では、
地域の人たち(専門職も含む)の誤解・偏見
大きな壁
- 地域支援・体制づくりは、多様な立場・職種の人
の参画が不可欠
- 地域支援・体制づくりは、一朝一夕で進まず
一貫した息の長い推進が必要



*多様な関係者、住民が、同じ方向を向いて協働していくには、
「何を大切に取り組んでいくか」、「方針」を
明確に掲げる、共有していくことが大切。

☆共通方針を
しっかりと打ち出すことで
職種や立場を越えた共通認識
やつながりが育つ!

☆専門職はもちろん
行政事務職が、
方針を語っている自治体は
取り組みが進む。

*方針を、一部の関係者内での共有にとどめずに、
地元の様々なチャンネル・方法を通じて、
地域の人々に発信し続けよう。
*方針が 地域で「あたりまえのこと」、「自然なこと」となるように。



*地域で共有していきたい方針

その1. 何をための取組みか、当事者や目的を見失わずに、
息長く取組み続ける。

*当事者抜きに進めない、当事者と共に、一步一步

⇔ この方針を明確にしていないと陥りやすい状況

事業や取組みをこなすことが目的になり、
当事者とかけ離れたところで労力が費やされ、行き詰まる
例：サポーター養成講座（数）、医療・介護連携、SOSネットワーク



*地域で共有していきたい方針

その2. 認知症になっても「地域の中で」生活していけるように

* 人としてあたり前の願い

* 「地域」は、認知症の人の安心・安定、生きる力の源
＝進行予防、行動心理症状(BPSD)の予防・緩和の鍵)

⇔ この方針を明確にしていないと陥りやすい状況

- ・ 地域にある豊かな資源を活かさぬままの一部の範囲の取組みでとどまる
- ・ 認知症の人が地域で暮らせる可能性をみないまま、無理、危ない、早く入所・入院を、と決めつける人が減らない。
◆地域の人のみでなく、医療・介護職、行政職の中にも
- ・ 家や施設・病院の中だけで暮らしている認知症の人がたくさんいても無関心、仕方がないとあきらめる。



*地域で共有していきたい方針

**その3. 一人ひとりが、認知症を自分事として考え
暮らしやすい町を「いっしょ」につくっていく
：町の人々も、専門職も、行政職も、自分事として**

⇔ **方針を明確にしていないと陥りやすい状況**

- ・ 認知症の啓発や取組みをたくさんやっても・・・
「なりたくない」という人や、「他人事」の人が跡を絶たない。
- ・ 一部の人たちの範囲で抱え込み、取組みが広がらない。
- ・ 行政や医療、介護にお任せの人、過剰な依存が増える一方。



「団塊の世代も自分のこととして」

ポイント②地域支援・連携上の課題を明確にする

- 自地域で暮らす認知症の人・家族の生活と支援の実態、困りごと、要望・希望を具体的に把握し、本人・家族の視点にたつて課題を検討する。
- * 本人・家族の声、関係者の声を、丁寧に聴く
 - * 地域にある統計や既存情報を集約する
- 得られた情報を、多様な関係者で検討する。

「これ抜きには、やってもやっても空回り。
暗闇にむかって矢を放っているよう。」

「本人・家族が必要としていることにつながらない。
ほんとうの成果がでない。
効率が悪い。
やってる人たちの達成感が生まれない。」

一例一例、ケース検討を積み上げて いる地域の例

本人の経過にそって、事実、生活実態、本人・家族の声、
支援の実際や必要な資源・支援についてを
多様な立場、職種の人達と一緒に検討
本人は、どうなのか…の視点で



- 当事者の声を聴く過程自体が重要な支援。
→その過程でつながりや成果が生まれる場合も多い。
- 地域で暮らす本人・家族にとっての必要性、
優先順位の高い課題の焦点化をおこなう。
→課題を具体化していく過程で
すぐできることも多数みつかると。
- 課題を明確にしていくプロセスを
当事者、地域の関係者が協働で行う
→この過程で方針の共有、取組みの一体感が生まれる。
- 既存のデータ、相談記録等を徹底的に活かす。
*自治体全体と同時に、
生活圏域(小地域)ごとの課題の具体化を

**ポイント③地域にある多様な資源に
視野を広げ、関係をつくる**

地域にある保健・医療・介護・福祉の資源を活かすと同時に
脱領域で。

既成の発想を超えて
わが町の特徴を活かそう。

自地域には、すごい人が眠っている。
思いがけない人が、思いがけない発想とパワーを出す。
当事者につながるつながりを生み出す。
認知症地域支援のイメージが変わる！
地域の元気がでる！

元気なときには気づきにくい「地域の宝」

当事者が地域で暮らす目線にそって

「地域の宝」を(再)発見しよう！ 出向いてつながりをつくろう！

***早期受診、見守りや生活支援、介護サービスにつながる足場になる**

1. 本人がなじみの場所、町にある資源とつながりつづけられるように
散歩道、外出先、買い物、外食、美容・理髪、飲み屋、お参り、
しゃべり場、様々な科の医療機関、鍼灸院、整骨院、
薬局・ドラッグストア、ガソリンスタンド、交通機関、等
戸外の風景・自然、文化も重要な資源
2. 本人が力を発揮して、伸び伸び楽しく暮らせる機会をつくるために
 - ・地域にある楽しみ場、趣味の場、**運動の場**
 - ・働き場所:ちょっとした得意な仕事をできるように
 - ・地元の知恵袋としての活躍の場(保育園、学校、公民館等)
例:子供たちや若い世代に知識や技を伝授、教養・歴史の語り部等

ふだんのネットワークの網目を細やかに

SOS時、災害時に威力

本人が求めている地域とのつながりを、ひとつひとつ支えていく。
 * 専門職、行政職の視界のみで連携・支援をしない。
 * 行動心理症状を減らし、自立度・体調を保つ鍵)



あの人に会いたい。なじみの道を散歩したい



あそこの花を今年も見に行きたい。



あそこに行って
きれいになりたい。



あそこで買い物したい。



同窓会に行きたい。

認知症の人の底力はすごい

支えられる一方ではなく、地域で働き、地域を支える一員として
 地域を舞台に活躍する本人の姿



地域の人の繕いもの役



忙しいお隣の草取り



町の花壇ボランティア



保育園の助っ人役



子供を守る:散歩中に
防犯パトロール



ご近所の掃き掃除
町内会から表彰状

地域の中で、実際に生き生き暮らす本人の姿が、
 地域の人々の偏見を解消し、理解と支援を広げる大きな推進力になる。

視界や発想を広げると・・・

⇒事業や取組みが思いがけなく展開していく。

- *福祉・保健・医療以外の異分野の資源が、地域支援・連携の起爆力。
- *つながりが、新たな解決力を生む。
- *従来の縦割り問題の解消の近道。
- *取組みが豊かで、生き生きしたものになる。
- *取組む人たちが、面白くなる。やる気がでる。
伸び伸びと自発的な力を発揮する。
⇒持続発展的に取組みが進展する。

ポイント④ 地域支援の推進役の人材・チームを育てる

行政、地域包括支援センターの重要な役割は、

*地域の人たち(専門職も含む)が主体的に考え、
動く力・支えあう力を伸ばしていくこと。

*その推進役・チームを地元で育てていくこと。

⇒結果として、内実を伴った、地域支援・連携が進む。
持続的に発展する。

行政職員、地域包括支援職員のみが
主導的に推進役を果たしつづけていると・・・

- ・住民、専門職のお任せ、依存状態が強まる。
 - ・行政・地域包括の負荷が増す一方。
⇒機能停止状態に陥る。
 - ・縦割りが解消しない。
 - ・担当者が変わると、賽の河原状態。
- ⇒地域支援・連携・支援体制づくりが進展しない

ポイント⑤ 地域支援を最前線で実践する人を育て、 そのつながりをつくる

- * 認知症の人の支援・体制づくりは、人で決まる。
- * 古い考え方ややり方ではなく、これからの認知症の「人」の生活、支援のあり方を理解し、日々の中で実践していく人材を地元で着実に増やしていくことが必要。
- * バラバラな講座・研修ではなく、住民～多様な専門職までを一体的に育て、つながりとチームを創りだす新たな考えと方策が必要。
- * 共に動く地元の人材・チームの育成を、「よそまかせ」にせず、自治体/地域で計画的に育てていくことが重要。

ポイント⑥ 本人・家族と支援者が地域で出会い、 支えあう場(地域拠点)を育てる

既存の相談窓口は・・・

- * 本人・家族、地域の人にとっては
(物理的・心理的に)遠い、敷居が高い。
- * すべての人を既存の窓口で受けていたらパンクする。
今後の数の予想を冷静にみよう。
⇒ もっと、身近なところで気軽に行けて、
関わりやつながりを継続的に持ちやすい場が必要。
⇒ 一部の人のみがつながれるのではなく、より多くの人がつながれる多様な場を小地域内に作る
* 地域にある場をとことん活かす

出会い・つながれる場を、生活圏域ごとに
つくる、増やす、育てる

- *当事者が日常的に通る、立ち寄りやすい
(既存の)場を探す、活かす
- *地域の多様な人たち・資源とともに
いっしょにつくり、育てる

- *地域包括支援センター職員や保健師、
医師等が出むき、出前相談を。



地域の空き屋を借りて



診療所の空きスペースで



施設の玄関わきを活かして



学童クラブに併設して

ポイント⑦ 本人・家族と地域の人、専門職が共に 話しあい、一緒に楽しく活動する機会をつくる

行政や地域包括支援センターの職員、専門職のみでは、

- ・いつもの発想ややり方の範囲内でとどまりがち。
- ・取組みを進めても、広がらない、深まらない
- ・住民がお任せ(依存状態)や義務的になり、長続きしない。

本人・家族、町の人たち、専門職が集まり
わが町のこれからのむけたアクションを
具体的に話しあう機会をつくろう。

この町で
何が
必要か
何を
やって
みたい
か
何が
できる
か、
自由な
アイデアを

会議だけしていないで、とにかく町に出て動き出そう。

- ☆一緒に汗を流す、共通体験をつくる
- ⇒ やってみることで、(小さな)成果が生まれる(失敗も含めて)
- ⇒ やって見たからこそその(小さな)成果を丁寧にキャッチして
広く広報していこう *新たなつながり、アクションの呼び水にする

都会地で・・・



過疎の小さな町で・・・



集まり話しあい、アクションプランを作り、とにかく動いてみる
⇒つながりや支えあいが広がる、支援が必要な人につながる

認知症施策の行政担当者、推進する立場の人の
役割はなんだろう？

ポイントの中には、
行政だからこそできること、
行政でしかできないことが、たくさんある！

認知症施策の行政担当者、推進する立場の人の主な役割は・・・

- ① 自地域の実態と課題を直視し、「地域で暮らす人」を大切にしたい目標、方針を明確にする。 * 自分ごととして
- ② 自分自身が揺らがずに目標にむけて企画し、行動する。
* 迷わず進む旗頭が必要！
- ③ 当事者・関係者・住民の合意形成を図る。
* 同じ方向に向けて力を結集するために
- ④ 自地域の特徴(実態、資源、強味、弱み)を大切に、
自地域にいる人・あるものがその力を発揮しながら
伸びていけるように支援をする(黒子として)。
* 地元の人材を活かして地域支援の推進人材・チームを育てる。
- ⑤ 自地域にいる人・あるものを、ひたすら「つなぐ」。
* 行政の声かけの威力

- ⑥ 世の中の動き、他地域の情報・資源(資金源も含め)を仕入れて、
自地域に伝える、「自地域のために」活かす。
- ⑦ 自地域の最前線の取組み、(小さな)成果・努力をキャッチし
地域に広く伝え、共有する、蓄積していく。
- ⑧ 自地域の最前線の状況をとらえ(モニタリングし)、
課題・成果をもとに、地元の最前線にあった事業を企画する。
- ⑨ 中期的な視野で、取組みを継続していけるためのしかけをつくる。
・施策を創る。⇒ 認知症、高齢者、地域関連の施策の展開
・自治体のより上位の計画に入れるための企画
・地元で暮らし続けている多様な立場の人たちによる
推進組織をつくる(支援をする)
- ⑩ 深刻でなく、希望のあるメッセージを発信する。

+α・・・

2. 取組みを進めている自治体からの報告

その1: 認知症の本人と家族に支援が行き届くための
わが町ならではの地域支援体制づくり
～行政担当者ならではの取組みと役割～

富士宮市保健福祉部福祉総合相談課 稲垣 康次さん
富士宮市富士根南地区社会福祉協議会 川原崎 仁さん
富士宮市社会福祉協議会 小野田 正樹さん

メモ：参考にしたいこと・ヒント

3. 取組みの確認と情報交換：わが町の取組みの今とこれから

ワークシート1-1

1) 自地域の取組みの現状と課題の確認

ワークシートで整理してみよう

*まずは、各自が考えてみよう。

1. 富士宮市の報告を聴いて、自地域に取り入れてみたい点や考え方は…
2. 自地域で重視している取組みの考え方や力を入れている点は…
3. 今取り組んでいる事業や活動の中で、悩んでいること・困っていることは(具体的な課題)
4. 自地域のこれからの展開にむけて
 - ・自地域での行政の役割は…
 - ・事業や取組みに活かしたい自地域の特徴は
 - ・自分の立場で、できること・やれそうなことは

ワークシート1-2

2) 他地域の参加者と話しあおう（グループワーク）

○まずは、各自が自己紹介を
お名前、地域、立場、自己PR(好きなこと、趣味等)

(1) 情報交換

ワークシートに書いたことにそって、
各自が順番に話そう。

(3) 討 議

以下の点に焦点をあてて話しあおう

- * 今、自治体として注力すべきことは何、
- * 行政担当者、推進役の立場で、
できること・やれそうなことは何か

☆話しあったことが消えてしまわないように、ワークシートにメモを残そう。
⇒明日の検討の大事な情報原
⇒地元へ帰ってからの伝達・共有・推進のための情報原

本人・家族を実際に支えていくための
継続的な認知症地域支援体制づくりにむけて

地元で
立場や職種を超えて、話し合おう。

☆今の時期（7月）は、とても重要！
＜今年度のこれから、来年度の準備の山場＞
共通のイメージ（ビジョン、目標、方針）を
丁寧に固めながら進もう。

今日は、そのきっかけ。
このワークを地元へ持ち帰って
（少人数からでも）話しあう機会をつくろう。

1日目終了！

ほんとうに、おつかれさまでした。

このあと、この場所で、

情報交換会です。

どうぞ、気軽にご参加ください。

この機会に、つながりと情報を！

©2007認知症介護研究・研修東京センター(070730)

～ 情報交換会 ～

○報告地域の関係者と直接会って、話しあおう。

- ・具体的なことを質問しよう。
- ・自地域に役立てたい内容・資料等の詳しい説明をきこう。
- ・担当者同士ならではの、悩み、アイデアを話しあおう。

○参加者同士、話しあおう。つながろう。

- ・今日の感想、気づいた点、深めたい点
- ・お互いの地域の紹介、具体的な情報交換
- ・今後もやりとりできるために
名刺交換、資料等の交換、

☆顔をあわせた機会だからこそこのやりとりを！

©2007認知症介護研究・研修東京センター(070730)

平成24年度

第1回 認知症地域支援体制推進 全国合同セミナー（2日目）

～認知症の本人と家族を地域で支える体制を築いていくために～

2012年8月21日
認知症介護研究・研修東京センター
（進行：永田 久美子）



井之頭公園の朝

©2007 認知症介護研究・研修東京センター(070730)

<本日の進め方> プログラム2日目

- 他地域の情報を参考に、
 - ・自地域のこれからの取組みのあり方
 - ・自分の進め方（進み方）を具体的に考えよう。
* 情報があふれたままにしないで

- 自地域に何を持ち帰り、どう活かすかを具体的に考えよう。



今日も、のびのびと

©2007認知症介護研究・研修東京センター(070730)

○昨日のワークより *ワークシートの情報提供ありがとうございました。

- ・事業を進めることで頭がいっぱいで、本人のこと、地域の最前線のことに見がいていなかった。
- ・啓発、医療連携、研修等いろいろやっているが、認知症の人につながっているのか？ その見直しがいる。
- ・規模が大きく、エリアも広くてどこから手をつけていいかと悩んでいたが、一つの小地域、一人の人から・・・まずはそこから。
- ・（報告した）富士宮はすごい！・・・お話を振り返ったらごく基本の積み上げ、繰り返しが大事。
- ・うちの町はうまくいってないと思っていたが、（富士宮の）佐野さんの話をきいて、包括の人が支援して元気になっている例があった。そういういい例をもっと地域の中で共有していきたい。
- ・専門職でないから、認知症はよくわからないと思っていたが、自分だったらどうか、ふつうの感覚を大事にしていきたい。

©2007認知症介護研究・研修東京センター(070730)

○自分が昨日のセミナーで得たこと、考えたことは・・・。

*大事だと思ったことを「ひとつ」でも、
自分の中に刻みこみ、今後の取り組みに活かしていこう。

グループワーク

まずは、今日のメンバーと（あらためて）自己紹介
氏名、地域、立場、自己PR（好きなこと、趣味など）

○昨日の情報や知見をもちより話しあおう

- ・自分の地域の施策や事業全体に活かしたい考え方は・・・
 - ・個々の事業や取り組みに活かしたい工夫やアイデアは・・・
- * 自地域の取組みの現状・課題を解消していくための
手がかりをいっしょに集めよう。

⇒ワークシートにメモを

話しあいを積み上げ、次の一步の手がかりを集める、残す
⇒地元の「誰か」に伝える、話しあう、活かす

©2007認知症介護研究・研修東京センター(070730)

資料2

6. 取組みを進めている自治体からの報告

その2: 泉南市認知症ケア推進事業の取組み

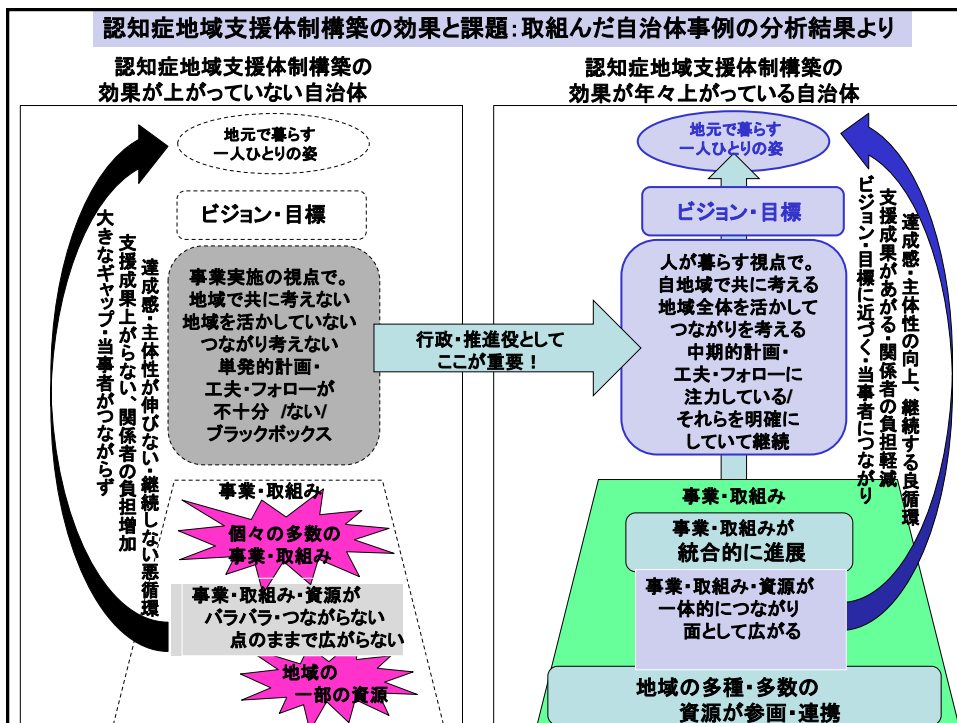
行政の立場を活かして、認知症の本人と家族
を支えるための人づくり・支援体制づくりを継続
的に進めていくために

泉南市健康福祉部長寿社会推進課 高尾 年弥さん
泉南市認知症ケア研究会 片木 京子さん

©2007認知症介護研究・研修東京センター(070730)

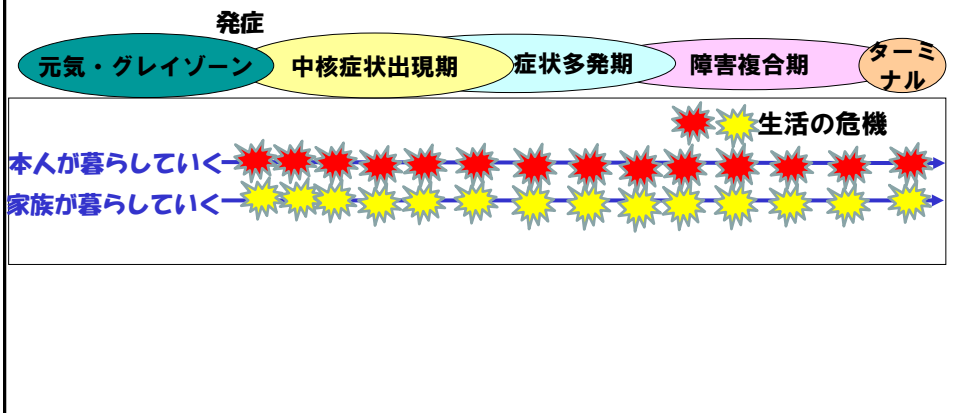
7. 認知症地域支援体制づくりを進める上での 課題解消にむけた各地の取組み

～全国各地の取組み事例より～



本人と家族は、発症から最期まで、長い経過を辿っている。

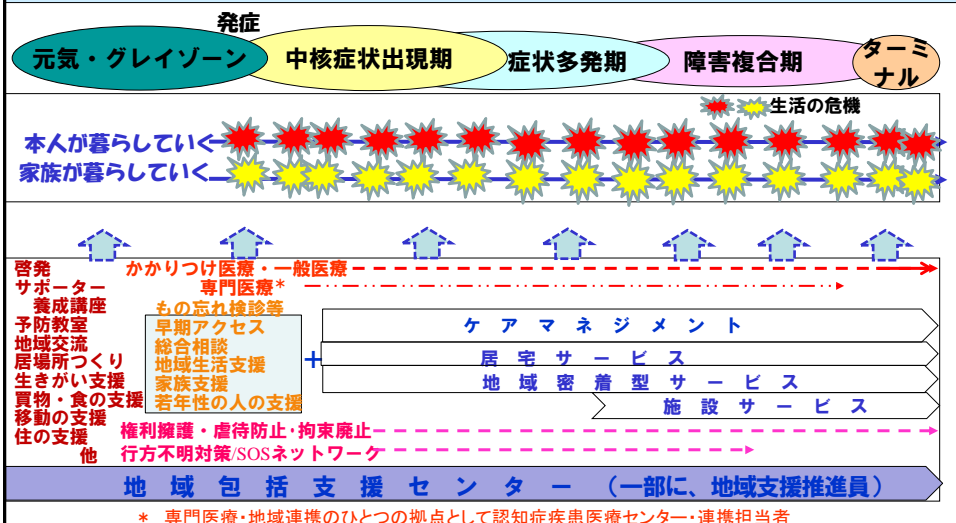
- *ごく初期段階から、不安、混乱、生活の危機に直面しています。
- *経過の途上で、不安、混乱、危機の内実が変化し続けます。
- *本人、そして家族は、共振れしながら長い経過を暮らしていきます。



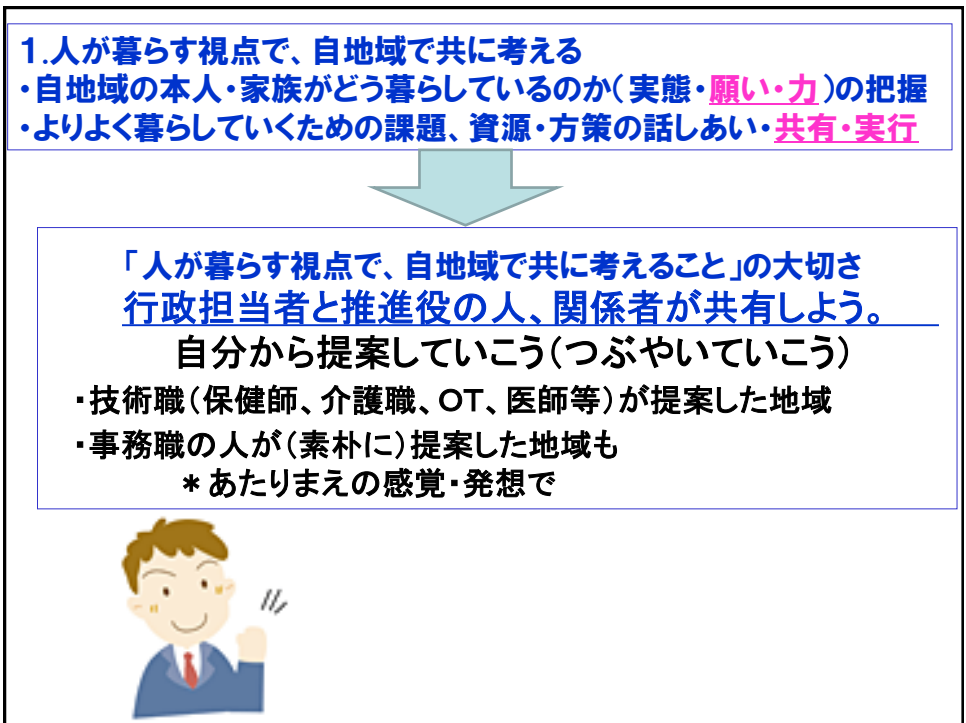
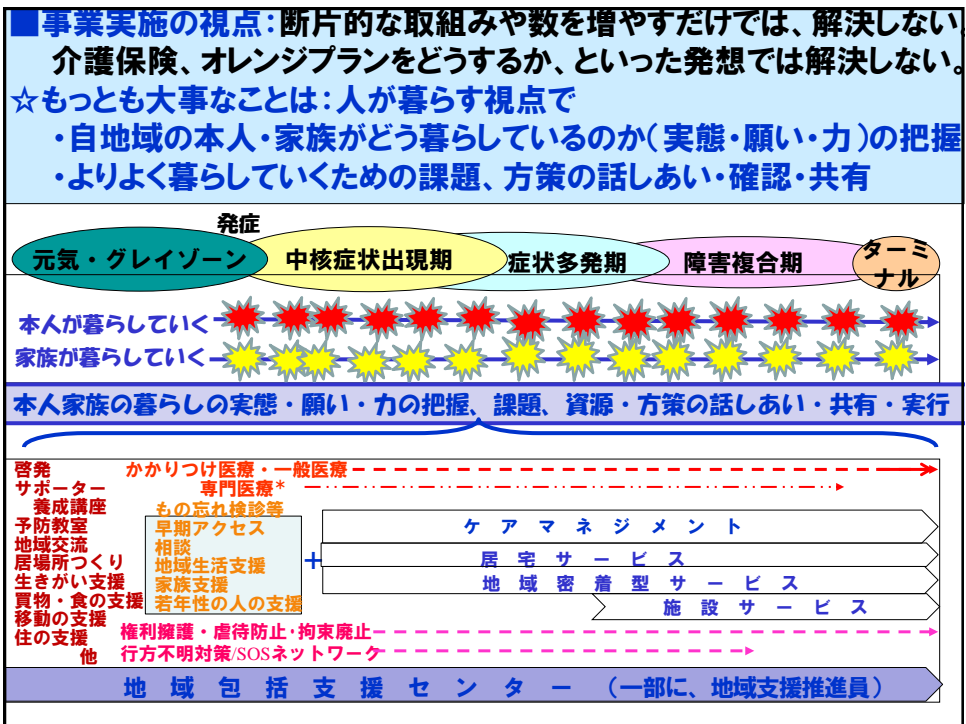
認知症関連の多様なサービスや人材が次々増えてきている。

その一方で、地域で暮らす本人と家族は、危機を回避したり、危機から脱して地域で安心して暮らせるようになっているでしょうか？

あなたの地域では・・・？



* 専門医療・地域連携のひとつの拠点として認知症疾患医療センター・連携担当者



☆人が暮らす視点で、自地域で共に考える

- ・自地域の本人がどう暮らしているのか(実態・願い・力)の把握
- ・よりよく暮らしていくための課題、資源・方策の話しあいと共有・実行

「人が暮らす視点で、自地域で共に考えること」の大切さ
行政担当者と推進役の人、関係者が共有する。

自分から提案しよう

- ・技術職(保健師、介護職、OT、医師等)が提案した地域
- ・事務職の人が(素朴に)提案した地域も
- * あたりまえの感覚・発想で

自地域で

あらゆる機会、あらゆる人に浸透させていく。

* 脱領域で、自地域にあるものをとことん活かしながら

「本人が暮らす」体験を知ろう、一緒に考えよう



本人が暮らす視点」の大事さを感じた職員が行政職員向けの研修企画
〈参加者アンケートより〉

- ・公務員は、この講座の受講を「必修」とした方がよい。
- ・本人の勇氣ある発言に、そして人生を楽しむという姿勢に拍手。
- ・認知症の方からの直接生の声が聞けてよかった。どんな支援を望んでいるのか、目からウロコです。
- ・今までの認知症についての知識が偏っていた事を教えて頂きました。当事者の声を聞くことにより、自分に何か出来ることは何か、改めて考えてみようという気持ちになりました。

62

毎年同じ啓発講座を繰り返していたが・・・

聞く一方、マンネリ、参加者がじり貧

「認知症にはなりたくないね～」という感想

☆「この町で暮らしていくこと」を参加者同士で
話しあってみる企画に市がリニューアル

⇒自分ごととして考えると・・・参加者は真剣、切実
支えあいたい思い

すでにあった支えあい、つながりが浮かび上がる

⇒行政、包括とつながって活動する人がでてくる

<「参加者」から、「共に考え動く人」へ>

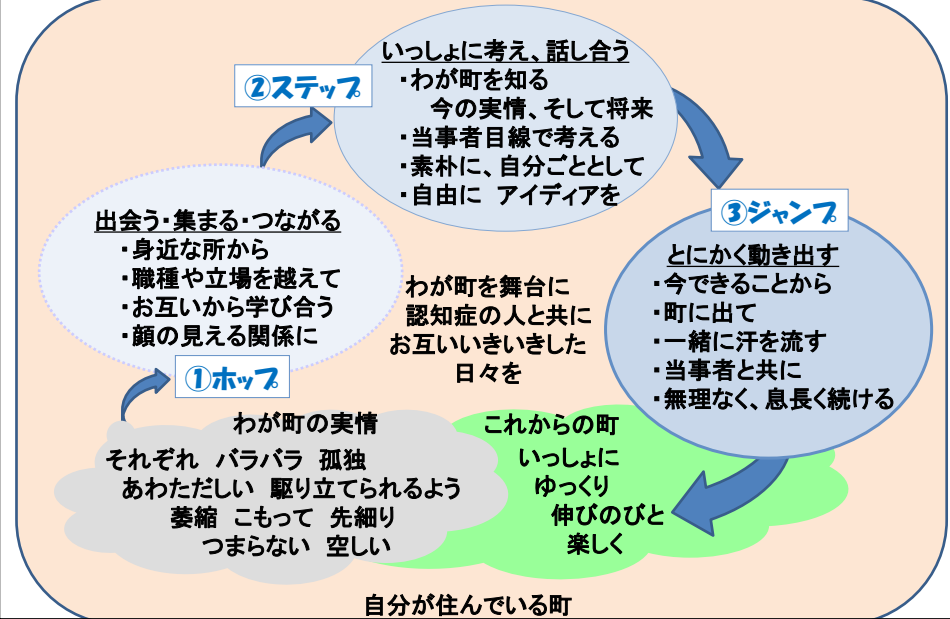


最前線を担う地域人材を一体的に育てる・一緒に育ちあう

地域の住民、ケア関係者、医師、行政職員らが一緒になって
話しあい、学びあい、企画しあう会を市が企画。



参考 アクションミーティング ⇒お問い合わせ:東京センター 03-3334-1150
 多様な人々がと出会い、認知症とともに暮らすわが町のこれからを話しあい
 ともにアクションを生み出す集まりを地元で開催しよう！



都会地で...



多世代の市民、多職種が
 地元の小地域単位で集まり
 出会い、お互いから学ぶ、
 わが町のこれからを話しあう。
 地元医師、サポート医も
 メンバーの一員として。

アイデアが次々と生まれた。



話しあいで生まれたアクションのアイデア

- 市民の理解を高める研修
- いつでも集まれる場づくり
- ちょっとしたことを相談できる場づくり
- デイサービスでやれないことを
やれる場づくり
- 見守り隊(男性ができること)
- 地元でちょっとした手伝い
- 本人・家族が情報を得られるサービス
- 「私は認知症」と言えるキャンペーン

実例⑦ 仕事や職場ではできないことも多い。
 自分の町を少しでもよくしていくために、当事者・関係者に
 呼びかけて仲間を増やしながら町づくりに取り組んでいる例
「自由に散歩できたら、きっと落ち着く利用者さんがいる」
いっしょに町歩きをよびかけた例

第3回 **かまから散歩** のご案内
由比ガ浜を歩こう! ひとことメッセージ

日時: 5月23日(日)
 午後 1時30分~4時30分
 集合: 1時30分 鎌倉駅西口前時計台の公園

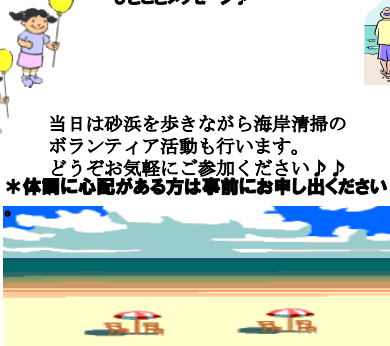

目的: ①交流をたのしむ
 ②海岸清掃のボランティア活動
 ③砂浜をのんびりする

散歩: 鎌倉駅西口前→徒歩→六地藏→
 由比ガ浜通り→由比ガ浜→海岸清掃→
 ひと休み→海岸散策→若宮大路→鎌倉
 駅東口

※天候により散歩コースの変更あり
 参加費: 飲食代金など2000円程度ご用意下さい
 参加者: たくさんの方の仲間たち
 企画協力
 連絡先:

当日は砂浜を歩きながら海岸清掃のボランティア活動も行います。
 どうぞお気軽にご参加ください♪
 *体調に心配がある方は事前にお申し出ください

*ロコミで、本人・家族、住民、
 ケア関係者、医師、行政職がつながり、
 支えあいの輪が「自然と」広がっています。

地方の町で...

地域の人と専門職、行政が共に、自分ごととしてアクションを考えた
 地域の人と一緒に何かやってみたいね...



➤畑仕事とか一緒にやれたらいいね
 地元の人や利用者さんと一緒に...

畑をやれたらいいなあ...と
 呟き続けていたら...

→うちの「あそこ」つかっていいよ。

→看板、つくってあげるよ

→看板立てるの、手伝うよ

* 思いがけない人がつながって
 「つぶやき」が、実現!



つながりがつながりを生んだ・・・

地域包括職員、保健師、介護職、介護家族、認知症の本人、病院看護部長、福祉課長、社協、産業課、マンションの人、民生委員、近所の人、通りがかりの人



こもりがちな認知症の人、施設で暮らす人が
畑で大活躍中！ケア職員のいつもの関わりでは
引き出せない生き活きさに職員、家族もびっくり！



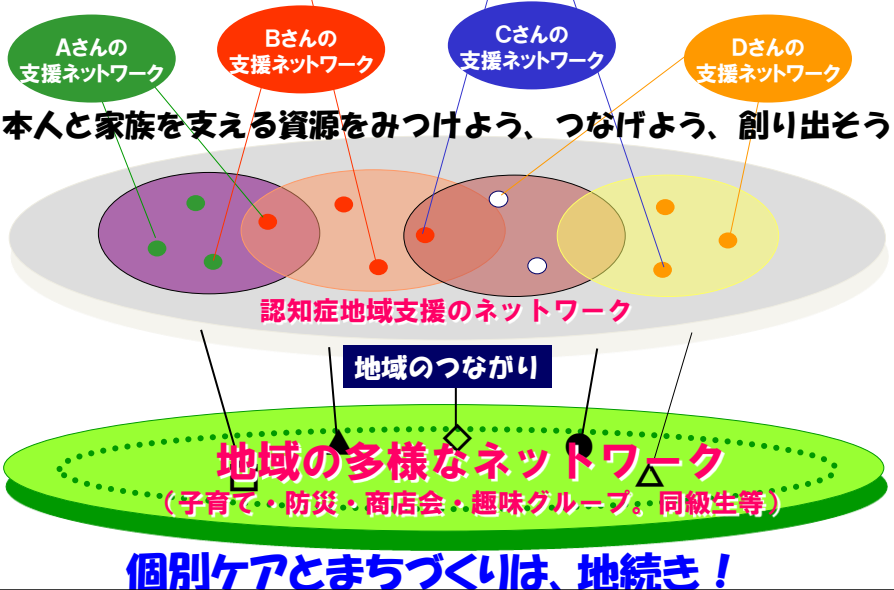
とにかく始めてみたら、つながりと支え合い、楽しみ・元気が、広がり中！
あなたの近くにも、一緒に動き出せる機会を待っている人がいます。

2. 地域全体を活かして、つながりを考える

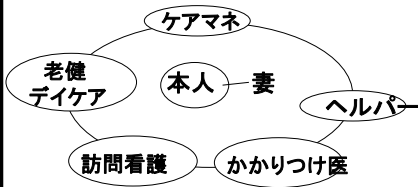
地域のある資源に視野を広げて

一人ひとりの支援ネットワークを大切に育てていこう。

本人がよりよく暮らせるための地域のネットワークを育てていこう



**事例② 本人視点にたって、本人の暮らしや地域とのつながりを見直し、
本人がよりよく暮らすためのつながり・支援を増やしていった例**



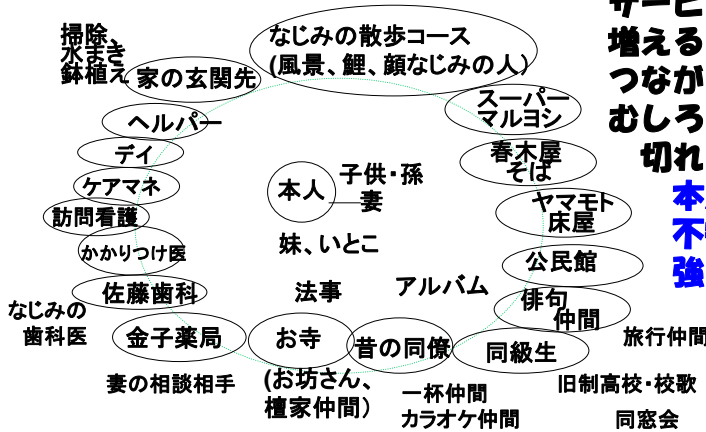
それぞれにケアや連携をしていた・・・
つもりだったが、
あらためて、
本人や家族の声を聞きながら
「わたしの支援マップ」
(センター方式A-4シート)
に書き込んでみた

***本人の視点に立ちながら・・・**

本人のなじみの場や人は・・・
本人が行きたいところは・・・
会いたい人は・・・



**本人がこれまで築いてきたつながり、そして自分らしい暮らし方が
「A-4 わたしの支援マップ」を通じて浮き上がってきた！
・家族、本人、関係者からの、「ちょっとした情報」を寄せ集めながら**

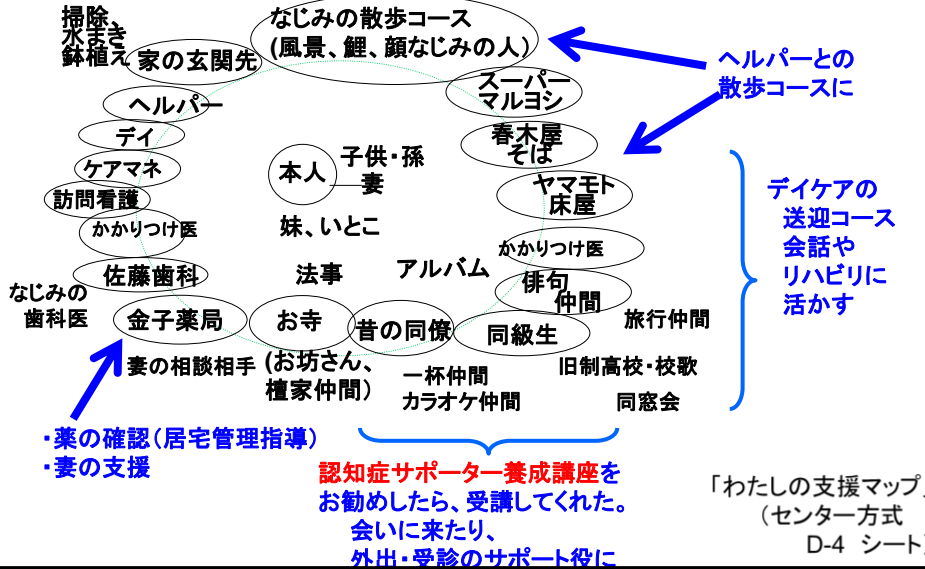


サービス利用が
増えるにつれて
つながりが
むしろ
切れかかっていた
本人・家族ともに
不安・ストレスが
強まり、孤立し
かけていた。

**地域資源のひとつ、ひとつ
本人にとっては 安心・よろこび・活力・自分らしさの源**

ケア職員だけで抱え込まず、地域の力を借りよう

- ⇒ ケア職員の素朴な声かけで、地域の多くの方が支え手に
- ⇒ 本人・家族が安心、生活が広がり、状態も安定
- ⇒ 成功体験を共有し、別の人への一緒にの支援が広がる



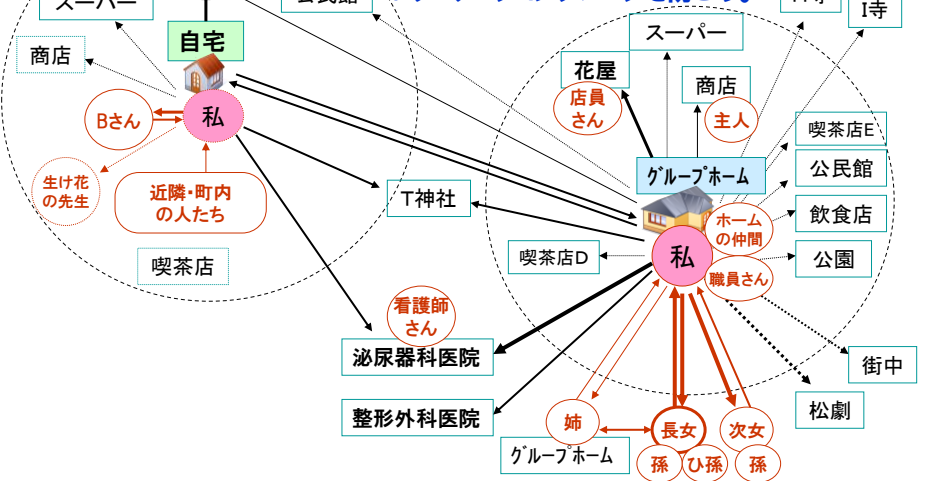
実例③ 独居、自宅での生活限界となしグループホームへ入居前後に地域とのつながりを守り、育てていった例

* 入居前後、入居後に: 少しずつ自宅にいた時の本人の楽しみ、「地域とのつながり」の情報を集める

> 会話や活動、外出時に活かす。

* 住み替えても本人の大切な暮らしを守ろう。

* リロケーションダメージを防ごう。



地域にいる、ある資源に気づき活躍できる機会を

・専門職

特に、地域密着型サービス事業者
認知症介護指導者 等

先生、としてではなく地域で一緒に悩み、
語り合い、創りだしていくパートナーとして

・多様な世代、立場の人

* 行政ならではの立場を活かす

* 自分が暮らす立場を活かす

自分が生きてきた中でのつながいを
活かす。



「団塊の世代も自分のこととして」

3. ネットワークを地域で生み出し、広げる推進役の人材を育てる
施策の重点: 研修、地域支援推進員の配置、を活かすためにも
職種や立場を越えて、よりよい暮らしや町づくりを
一緒に考え、「次を育てる人」を市が養成

本人の声は？
本人がよりよく
暮らすために
何が必要？
何ができる？

医師 ケアマネジャー



家族
保健師
訪問看護師
ヘルパー

民生・児童委員
行政事務職員
施設職員
デイサービス職員

地域包括支援センター

- * 少人数からでいいので、スタートする。
- * 仲間が仲間に声かけて、参加者を広げる。
- * 率直に話し合い方針や価値観の共有を。
- * とにかく続ける。
- * 経過をフォローし、成果と課題を積み上げ、地域に発信する。積み上げを丁寧に活かす。

地域での開催を支援しています：お気軽に 03 - 3334 - 1150(永田)

「今後の認知症施策の方向性について」(報告書)の概要

厚生労働省・認知症施策検討プロジェクトチーム(2012年6月)

今後目指すべき基本目標

- 「認知症の人は精神科病院や施設を利用せざるを得ない」という考え方を改め、「認知症になっても**本人の意志が尊重され**、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることができる社会」の実現を目指す。
- この実現のため、新たな視点に立脚した施策の導入を積極的に進めることにより、これまでの「自宅→グループホーム→施設あるいは一般病院・精神科病院」というような「ケアの流れ」を変え、むしろ逆の流れとする標準的な「認知症ケアパス」(状態に応じた適切なサービスの提供の流れ)を構築することを、基本目標とする。

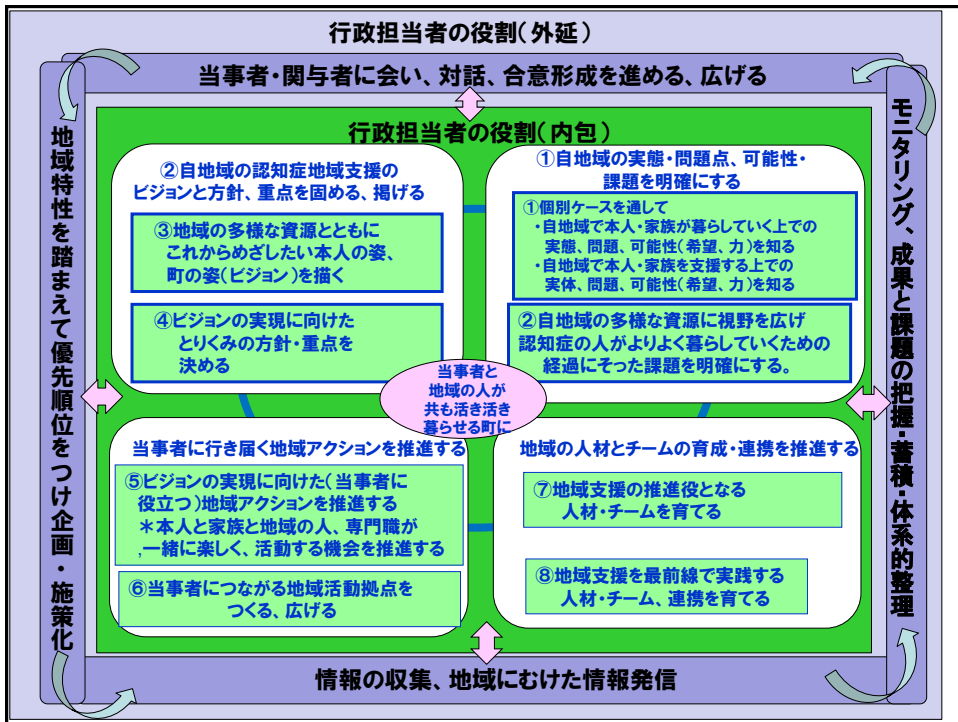
今後の取組

- 上記の基本目標(「ケアの流れ」を変える)の実現のために、現在行われている施策について、多くの意見や批判を踏まえて、見直しやバージョンアップを図ることにした。新規施策と合わせて、地域で医療、介護サービス、見守り等の日常生活の支援サービスが包括的に提供される体制を

目指し、具体的には、以下の7つの視点に立って、今後の施策を進めていくことにする。

1. 標準的な認知症ケアパスの作成・普及
2. 早期診断・早期対応
3. **地域での生活を支える**医療サービスの構築
4. **地域での生活を支える**介護サービスの構築
5. **地域での日常生活・家族の支援の強化**
6. 若年性認知症施策の強化
7. 医療・介護サービスを担う**人材の育成**





8. 自地域の課題、特徴に根ざした取組みの補強策を具体化しよう。

- ・グループワーク
*ワークシートを活かそう。
- ・全体共有

全体での情報・意見交換

～2日間を通じて得たことをもとに、わが町の認知症地域支援に
取組んでいくための焦点を参考にしあおう～

2日間、お疲れさまでした！

今回のセミナーをひとつのきっかけにして
あなたの地元で、
めざしたい地域の姿にむけて
あなたが（小さな）アクションをおこしてください。
伝える、話しあう、できることから一緒に。

これからも
全国の他の地域で悩みながらも前に進んでいる
仲間とつながり続けてください。

また、お会いできるのを楽しみに！
☆第2回、第3回合同セミナー：チラシ参照！